

令和4年度 第4四半期（2023年1月～3月）景況動向調査結果

十和田商工会議所 中小企業相談所

1. 調査対象

(1)対象企業数 十和田商工会議所会員 25 事業所

内訳:建設業、製造業、卸売業、小売業、サービス業 各 5 事業所

(2)回答企業数 有効回答=25 事業所(回答率 100%)

2. 調査対象期間

今期=2023年1月～3月

- ・前年同月比=前年同期(2022年1月～3月)と比べた今期の状況
- ・前期比=前期(2022年10月～12月)と比べた今期の状況
- ・先行き見通し=今期と比べた来期(2023年4月～6月)の見通し

3. 調査期間 2023年3月15日～3月24日

4. 表示方法

本報告書中の「DI」とは、「ディフュージョン・インデックス、景気指数」の略で、各項目について、「上昇・増加」と回答した企業の割合から「下降・減少」と回答した企業の割合を引いた数値である。

DI値が0より上の場合=景気は上向き

DI値が0の場合 =景気は横ばい

DI値が0より下の場合=景気は下向き

5. 調査項目ごとの状況

(1) 業況DI

業況DIの現況判断は▲39.9 で、業種別にみると「製造業」「小売業」が▲19.8 で最も高く、「建設業」が▲40.0 で続いている。

先行きは 11.9p改善の▲28.0 で、業種別では「建設業」「卸売業」で改善、「製造業」「サービス業」で悪化となっている。

図表1 業況DI

	2022年 10~12月期 (今回調査)		2023年 1~3月期 (今回調査)		2023年 4~6月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲45.8	↘	▲39.9	↗	▲28.0	↗
建設業	▲39.8	↗	▲40.0	↘	▲20.0	↗
製造業	▲39.8	↘	▲19.8	↗	▲20.0	↘
卸売業	▲60.0	→	▲60.0	→	▲20.0	↗
小売業	▲25.0	↗	▲19.8	↗	▲19.8	→
サービス業	▲60.0	↘	▲59.8	↗	▲60.0	↘
(参考)全国全産業	▲18.4	↗	▲14.8	↗	▲16.3	↘
(参考)東北全産業	▲27.2	↗	▲13.1	↗	▲19.4	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)



(2) 売上高DI

売上高DIの現況判断は▲47.8で、業種別にみると「製造業」が▲19.8で最も高く、「小売業」「サービス業」が▲39.8で続いている。

先行きは3.8p改善の▲44.0で、「建設業」「卸売業」で改善、「製造業」「サービス業」で悪化となっている。

図表2 売上高DI

	2022年 10~12月期 (今回調査)		2023年 1~3月期 (今回調査)		2023年 4~6月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲41.4	↗	▲47.8	↘	▲44.0	↗
建設業	▲39.6	↗	▲59.6	↘	▲40.0	↗
製造業	▲19.8	↗	▲19.8	→	▲20.0	↘
卸売業	▲60.0	↘	▲79.8	↘	▲60.0	↗
小売業	▲49.5	↘	▲39.8	↗	▲39.8	→
サービス業	▲39.8	→	▲39.8	→	▲60.0	↘
(参考)全国全産業	▲0.6	↗	1.9	↗	▲4.7	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (増加の回答割合) - (減少の回答割合)

(3) 採算DI

採算DIの現況判断は▲44.0で、業種別にみると「建設業」「製造業」「小売業」「サービス業」が▲40.0で最も高く、「卸売業」が▲60.0で続いている。

先行きは12.0p改善の▲32.0で、「建設業」「製造業」「卸売業」で改善、「小売業」「サービス業」で横ばいとなっている。

図表3 採算DI

	2022年 10~12月期 (今回調査)		2023年 1~3月期 (今回調査)		2023年 4~6月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲50.0	↘	▲44.0	↗	▲32.0	↗
建設業	▲20.0	↗	▲40.0	↘	▲20.0	↗
製造業	▲39.8	↗	▲40.0	↘	▲20.0	↗
卸売業	▲60.0	→	▲60.0	→	▲40.0	↗
小売業	▲75.0	↘	▲40.0	↗	▲40.0	→
サービス業	▲60.0	→	▲40.0	↗	▲40.0	→
(参考)全国全産業	▲24.1	↗	▲20.1	↗	▲20.9	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

(4) 資金繰りDI

資金繰りDIの現況判断は▲20.0で、業種別にみると「建設業」が0.0で最も高く、「製造業」「卸売業」「小売業」が▲20.0で続いている。

先行きは8.0p悪化の▲28.0で、「卸売業」「小売業」「サービス業」で横ばい、その他の業種で悪化となっている。

図表4 資金繰りDI

	2022年 10~12月期 (今回調査)		2023年 1~3月期 (今回調査)		2023年 4~6月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲12.5	↗	▲20.0	↘	▲28.0	↘
建設業	0.0	→	0.0	→	▲20.0	↘
製造業	▲19.8	↗	▲20.0	↘	▲40.0	↘
卸売業	▲20.0	↘	▲20.0	→	▲20.0	→
小売業	0.0	→	▲20.0	↘	▲20.0	→
サービス業	▲20.0	↗	▲40.0	↘	▲40.0	→
(参考)全国全産業	▲16.5	↗	▲15.1	↗	▲14.5	↗

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

(5) 仕入単価DI

資金繰りDIの現況判断は▲80.0で、業種別にみると「サービス業」が▲60.0で最も高く、「建設業」「製造業」「小売業」が▲80.0で続いている。

先行きは4.0p改善の▲76.0で、「製造業」で改善、その他の業種で横ばいとなっている。

図表5 仕入単価DI

	2022年 10~12月期 (今回調査)		2023年 1~3月期 (今回調査)		2023年 4~6月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲75.0	↗	▲80.0	↘	▲76.0	↗
建設業	▲60.0	↗	▲80.0	↘	▲80.0	→
製造業	▲80.0	→	▲80.0	→	▲60.0	↗
卸売業	▲100.0	↘	▲100.0	→	▲100.0	→
小売業	▲75.0	↗	▲80.0	↘	▲80.0	→
サービス業	▲60.0	→	▲60.0	→	▲60.0	→
(参考)全国全産業	▲74.4	↗	▲75.1	↘	▲69.1	↗

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

(6) 従業員DI

従業員DIの現況判断は▲3.8で、卸売業で過剰、その他の業種でやや不足となっている。
先行きは4.1p改善の0.3で、全ての業種でやや不足となっている。

図表6 従業員DI

	2022年 10~12月期 (今回調査)		2023年 1~3月期 (今回調査)		2023年 4~6月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	0.3	↗	▲3.8	↘	0.3	↗
建設業	0.4	↗	0.2	↘	0.4	↗
製造業	0.2	→	0.0	↘	0.0	→
卸売業	0.4	↗	▲19.8	↘	0.2	↗
小売業	0.0	→	0.2	↗	0.2	→
サービス業	0.2	↘	0.6	↗	0.6	→
(参考)全国全産業	20.5	↗	21.8	↗	21.8	→

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

6. 業況感等に関する自由記述

コメント	業種
電気料値上げによるコスト増加が感じられる金額になっている。	建設業
長期工事に関して、材料費高騰に伴い額単価も上昇しているため顧客の動きが鈍くなっている。	建設業
工事を受注しても、配置する技術者がいない。	建設業
今月は商品規格改定のため、通常より仕入増となっている。	製造業
原材料、資材、燃料、光熱費等すべてを価格転嫁できない状況で、売上高は増加してもコストアップの上昇が上回り手元に残る利益は大幅に減っているのが現状。さらに物価高で賃金アップも相応に対応したいが、例年以上の上乗せは厳しい状況である。各種助成金の対象を売上高の増減だけで決めるのは不利な業種もある。	卸売業
半導体不足により、新車入荷不足。	小売業
電気代や維持費上昇のため、3月1日から値上げを実施した。その甲斐あって売り上げも微増が続いており、今月は増収見込みである。	サービス業